



2020年度 学生災害ボランティア・ネットワーク事業  
 大学コンソーシアムひょうご神戸  
 学生ボランティア広報紙

2020  
 Vol.04

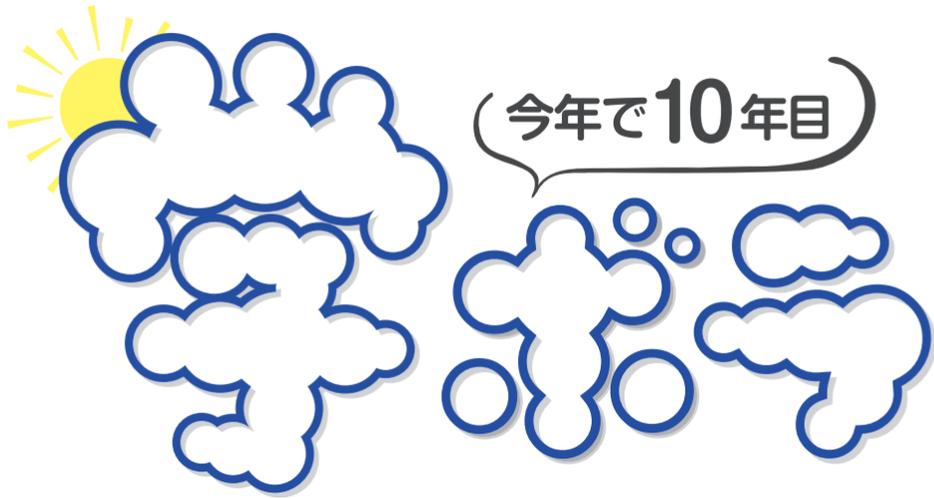
2021年3月発行  
 ■編集/  
 大学コンソーシアムひょうご神戸  
 2020年度学生災害ボランティア・ネットワーク事業  
 ■発行/  
 神戸市社会福祉協議会  
 日本財団学生ボランティアセンター  
 大学コンソーシアムひょうご神戸  
 ■デザイン/  
 イワサキ出版印刷有限会社



今だから、学生だからできること  
 ~思いをつなぐ、コロナ禍でのボランティア活動~

もくじ

- 2・3 | 学ボラの概要・研修の流れ
- 4 | 宮城県名取市 関上での活動
- 5 | 長野県長野市 赤沼での活動
- 6 | 岡山県小田郡矢掛町での活動
- 7 | 熊本県人吉市・兵庫県三木市での活動
- おすすめ！ Spot & Food  
 ボランティアお役立ち情報



## 学生災害ボランティア・ネットワーク事業 2020

「つたえる・つながる・つづける」の「3つの“つ”」をコンセプトに活動してきた私たちの学生災害ボランティア・ネットワーク事業は、今年で10年目となりました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延という災禍に地球全体が直面しました。コロナ禍において、人々の行動は制限されても、「災害は起きる」、「被災地といわれる場所はある。」今年度は、このような状況下で、「学生である自分達に何ができるのか？」を被災地域の関係者の声を聞き、「3つの“つ”」を意識して考え、ボランティア活動を実践しました。そして、この経験を通して、今後の人生の糧となる多くの気づきを得ることができました。

### 事業コンセプト

## 3つの“つ”

- つたえる…震災の経験と教訓を、現地の現状を
- つながる…現地の住民、学生と
- つづける…現地での活動をこれからも

～これからも、この活動に参加する学生たちによって受け継がれていきます～



## 研修の流れ

数回の研修とネットワーク活動を通して「自発性をもち、社会的ニーズに対して活動する」というボランティアの原点に立ち、自ら課題を見つけ、協働していくことを学びます。



大学コンソーシアムひょうご神戸 学生スタッフと宮城の尚絅学院大学 TASKIの学生による、一般学生を対象にしたイベントを行いました。

### 大学間連携オンライン合同ボランティア活動・学習会 2020

被災地への支援のあり方を考える～コロナ禍でわたしたちができることは～

日時：2020年8月29日(土)、30日(日) 13時00分～16時00分  
 内容：新型コロナウイルス感染拡大によって例年通りの活動ができない今、私たちは何ができるかを全国の大学生と合同で行う意見交換を通して考え、また過去の災害を学び直し、そして現在の被災地の現状や課題について考えました。



8  
August

## 第4回研修会

過去の災害の学びを活かし、  
災害・防災リーダーになるためには

日時：11月22日(日) 10時00分～17時00分  
(午前の部)

場所：神戸市役所→東遊園地→旧居留地→メリケンパーク

講師：神戸防災技術者の会 (K-TEC) 倉橋 正己・片瀬 範雄・仲田 文人・田中 亜矢子講師  
 内容：「震災遺構フィールドワーク」として神戸市中心部の阪神淡路大震災の遺構を講師の方に詳しく解説していただきながら巡りました。

(午後の部)

場所：ふたば学舎 3階 講堂(長田区)

講師：ふたば学舎 山住 勝利コーディネーター

内容：阪神淡路大震災発災直後の長田区の状況や阪神淡路大震災と東日本大震災の両方を経験された語り部の方のお話を聞いた後、実際に段ボールを使った避難所体験やコロナ禍での避難所運営についてシュミレーションを行い、災害・防災リーダーの視点で災害にどう対応するかの講義を受講しました。



## 第6回ヒアリング報告会 & チームミーティング

日時：12月20日(日) 14時00分～17時00分

場所：Zoomによるオンライン

内容：【第1部】ヒアリング報告会

現地関係者と行ったヒアリング内容を踏まえ、各活動地の現状や来年の本活動の方向性についてプレゼンテーションを行いました。

【第2部】チームミーティング

1月10日に行う現地活動プレゼンテーションに向け、本活動の具体的な内容について打ち合わせを行いました。

チーム名  
アンバラン

大島かれん、奥川華  
永茂こころ、前田輝一  
松本温寛、奥馬直

## オリエンテーション & 第1回研修会

### ボランティア活動をするということは

日時：11月8日(日) 13時00分～17時00分  
 場所：兵庫国際交流会館 3階 多目的ホール  
 講師：三田市野外活動センター 森本 崇資 所長  
 内容：活動のオリエンテーション、スタッフ紹介、学生スタッフによる研修の後、「だいじょうぶ」-ところであなたは、なにができますか?というテーマの講義を受講し、「ボランティア活動をするということ」について考えました。



### 仲間を知り、過去の活動を知る

日時：11月14日(土)  
 13時00分～16時00分  
 場所：兵庫国際交流会館 3階 多目的ホール  
 内容：活動地ごとのチームに分かれて「自分を知り、仲間を知る」グループワークを行ったり、今年で連携10年目になる宮城県尚綱学院大学チーム TASKI の活動や名取市の現状を学びました。

## 第2回研修会



## 第3回研修会

### 災害を学ぶということは

日時：11月15日(日) 9時30分～15時00分  
 場所：人と防災未来センター  
 講師：人と防災未来センター 研究部 高原 耕平 主任研究員

内容：「人と防災未来センター」を見学した後、「p4c (philosophy for children)」という哲学の探求手法を用い、「復興と防災」「死と折り」「記憶と未来」をテーマに対話活動を行い、「災害を学ぶこと・伝えること」について考えました。



コミュニティボール

自分のことを語りながら、隣人の助けを借り、毛糸を巻いていき、全員が語り終えた時点でボールが完成。このボールを持っている人以外は発言ができないルールで、話者が安心して話すためのルール。第3回研修会で作成。

## 振り返りの会・修了認定式

### 現地活動報告とこれから

日時：2021年3月20日(土)  
 14時00分～17時00分  
 場所：120 ワークスペース神戸  
 内容：各チームごとに実施した活動の報告を「趣旨、現地のニーズ、課題」を交えて行うとともに、今回の活動の経験を今後どう活かすか、個人の意気込みについても語りました。



11

November

12

December

2021

1

January

2

February

3

March

### 現地との活動

## 学んだことを、実際の活動に活かすには

日時：12月13日(日)  
 14時00分～17時00分  
 場所：Zoom によるオンライン  
 講師：神戸常盤大学 戸谷 富江 ボランティアコーディネーター  
 内容：これまで受けた研修を今後の活動に繋げるためにはどうすればよいのか、講師と一緒に「目的と目標」の違いを意識して考えました。その後、各チームに分かれて実際の現地活動に向け打合せを行いました。

## 第5回研修会 & チームミーティング



## 第7回現地活動プレゼンテーション

日時：2021年1月10日(日) 14時00分～17時00分  
 場所：Zoom によるオンライン  
 内容：【第1部】現地活動プレゼンテーション  
 2月からの本活動の方向性・内容についてプレゼンテーションを行いました。  
 【第2部】チームミーティング  
 本活動について打ち合わせや実施計画書、予算申請書を作成しました。

### 本活動の方向性・内容

宮城チーム



2020年度 学生災害ボランティア・ネットワーク事業

現地活動プレゼンテーション 岡山チーム  
 PowerPoint作成者：上野梨恵香

### 新たな街づくり

・桜町(花畑周辺地区)にぎわい創出  
 桜町地区再開発施設-2019年12月全館開業  
 用途  
 バスターミナル/商業施設「SAKURAMACHI Kumamoto」/公益施設  
 「熊本城ホール」/共同住宅/保育所/事務所/駐車場等

←桜町開発地区マップ

# 宮城県名取市 閉上での活動

## 茶話会での絵灯籠制作

コロナ禍で何ができるのか考えたとき、住民の方々とオンライン上で繋がることはできないか、というボランティア活動の新たな在り方を見つけるべく考えた活動です。神戸の学生と宮城の学生が現地の方からの提案や、自分たちで考えたテーマをもとに灯籠の絵を作成し、現地に郵送しました。閉上地区の住民の方々がそれらの絵を絵灯籠に組み立て、3者協働で制作された絵灯籠を、町内会の追悼行事に並べていただきました。自分の手元にあった絵が現地の方の手によって組み立てられる様子から「繋がり」が見えたように感じました。今回の活動から、離れていても繋がることができると感じました。また絵灯籠の共同制作は毎年続けることができるのではないかと思います。

**日時** 2021年3月9日(火) オンライン

**参加者** 閉上地区の住人の方13名、尚綱学院大学学生3名、神戸学生6名



3.11の集会で並べられた絵灯籠



神戸・宮城の学生が作成した絵を閉上中央町内会集会所で組み立ててくださっています



閉上中央町内会集会所で住民の皆さんと「ハイッ、仙台名物」「ずんだもちい〜」

### VOICE

現地関係者からのコメント

菊地 麻理子さん 名取市サポートセンターどっと.なとり総括

東日本大震災から10年。名取市ではハード面の整備がほぼ完了し、これからは安心して暮らせる地域コミュニティづくりの重要性が高まると考えられます。今年は新型コロナウイルスの影響でZoomという新たな方法での交流となりましたが、おかげさまで住民さんたちにはたくさんの笑顔の花が咲きました。震災、そしてパンデミック。支援の形も時代背景によって変わってきますが、学生災害ボランティアのみなさんには、県を越え年代を越え、いつまでも変わらず心を寄せていただき、感謝しております。これからも忘れることなく、未来へつないでくれることを願っています。

## 東日本大震災

2011年3月11日。国内最大規模となるM9.0の地震。死者15,898人、行方不明者2531人、避難者数49,953人。津波の高さ最大9m以上と人間の予想を遥かに超えた、未曾有の大地震だった。震災から10年たった今復興公営住宅へ移る人々、自己再建する人々の増加。そして、2019年5月に閉上ではまちびらきが行われた。しかし、本当にまちができたといえるのだろうか。「まちびらきとはなんだべ」と住民の方々の気持ちが追いつかずにいる。

私たち学生にできること。それは、そばにいる。話す。耳を傾ける。共に笑う。同じ時間を共有する。忘れない。そして、学び続ける。これが、震災から年月が経った今、できること。



### お世話になった方々

尚綱学院大学 連携交流課 佐々木 未央 様

名取市閉上中央町内会 会長 長沼 俊幸 様

JOCA東北 名取市サポートセンターどっと.なとり 総括 菊地 麻理子 様

## 東日本大震災特別講演会

「東日本大震災から10年 聴こう、話そう、考えよう 3.11 ~あの日から10年、私たちの思い~」

10年の節目に3.11を全国の学生と振り返り、率直な思いや考えを共有する機会をつくるのが目的です。各地方で東日本大震災や今の現地の様子のイメージは様々あると考えます。参加者と長沼さんの全体での交流では一人ひとり違う意見が飛び交い、それぞれが新たな知識を持つことのできる会になるのではないかと思います。また、交流を通し、参加者の思いを受け止めた中で被災時からの10年間について長沼さんに講話していただきます。講話前後の東日本大震災に対するイメージの変化、震災に対する考え方の変化を感じることができると思います。身近にあるのに知らないことを知る感覚を多くの方に感じていただくことができるように活動したいです。



**日時** 2021年3月28日(日) オンライン

**参加者** 20名程度

## 仙台防災未来フォーラム2021

— 東日本大震災から10年 よりよい未来のために —

『仙台防災未来フォーラム2021』オンライン発表部門に尚綱学院大学(宮城県名取市)と共同で出展しました。



### VOICE

活動で感じたこと、感想

三鍋 佑奈 神戸女子大学3年生

実際に活動を行うまでに解決すべき課題はたくさんあり、当初は不安でいっぱいでした。しかし、現地の方々を含め、多くの方から助言をいただいたことで何とか活動を形作ることができました。対面交流ができなくなった悔しさや、現地のみなさんとなつなりたいという想いを原動力に活動に取り組めたように思います。

# 長野県長野市 赤沼での活動

## 届け！長野のりんごハッピー会

### ～りんごの架け橋～

私たち学生は「住民さんを笑顔にする」を目標に活動しました。りんご農家の方々や長野県・市社協の方々と交流を行い、令和元年の台風による被害を大きく受けたことを知りました。そして、その被害に負けず長沼地域の活性化を日々続けられているりんご農家さんがいらっしやると聞き、そこから様々な人に長野の美味しいりんごや災害を知って頂きたいと考えました。その想いから『届け！長野のりんごハッピー会～りんごの架け橋～』を計画しました。内容は、長野のりんごを KOBE BOLERO さんの協力のもと、菓子パイとパンウドケーキを作り、そのお菓子をオンラインの試食会でみんなで食べるという企画でした。生食用のりんごが美味しいことはもちろん、KOBE BOLERO さんで作っていただいたりんごのお菓子も好評でした。今後も長野の美味しいりんごや災害を知ってもらい、長野を身近に感じ、「また足を運んで見ようかな」と思ってもらえるような活動をしていきたいです。

日時 2021年2月23日（火） オンライン

参加者 長野の方9名、神戸の学生12名



お菓子に加工する前のりんごはシャキシャキ



何回も通ってやっとできた！



お手紙を添えて長野に送ります

**VOICE** 関係者からのコメント  
高石 祥太さん KOBE BOLERO お菓子楽団 店長

「長野のりんごで神戸スイーツを創作し、それを再び長野に送り、食べて笑顔になってもらう…」お店にとって初めての経験を従業員一同楽しませていただきました。学生主体の企画ということで、学生の皆さんが熱心にお店に通ってくれて、試作、試食を重ねた結果、無事に「りんごのパウンドケーキ」と「りんごのスマイルパイ」が完成した時は嬉しかったですね。このように全国の被災地に想いを馳せ、繋がって、被災地を支援する活動は、学生時代からできることだと思います。ぜひ、これからも続けてください。最後に自分達で作ったお菓子を多くの方に一緒に食べていただく姿を観るのは、初めてで、とても感慨深かったです。来年度も、もし繋がれるのであれば、今度はまた違うお菓子も作ってみたいという気持ちにもなりました。貴重な経験をありがとうございました。また、機会があれば、ぜひよろしくお願いします！

## 令和元年東日本台風（台風第19号）

2019年10月12日に過去最大級の勢力で日本列島に上陸した台風19号は、関東甲信や東北地方を中心に記録的な大雨を降らせ、甚大な被害をもたらした。長野県長野市では千曲川の堤防が決壊し、5千世帯以上が浸水。浸水被害を受けたエリアは全国有数のりんごの名産地だったが、大半の農家が廃業に危ぶまれている。災害から一年が経過した今私たちに出来ることは何かを考え、少しでも長野の美味しいりんごを全国に広げたいと思った。そのためには、私たちはどのような活動をしていくべきかを考える必要がある。



### お世話になった方々

長野県社会福祉協議会 主任 山崎 博之 様  
長野県社会福祉協議会 千曲川広域支援サテライト 井上 洋輔 様  
長野市社会福祉協議会 武井 未緒 様  
津野復光隊 小川 奈津美 様  
長沼林檎生産組合ぼんと童 徳永 慎吾 様、組合員の皆様  
KOBE BOLERO お菓子楽団 店長 高石 祥太 様



りんごペーストを使ったスマイルパイ



災害の翌年は、過去最高量のりんごの収穫がありました！

**VOICE** 現地関係者からのコメント  
小川 奈津美さん 津野復光隊

長野のりんごが神戸に渡って、お菓子という形で長野に返ってきて、みんなで共有できたことに感動しています。お菓子もおいしかったです。長野はフジも主力ですが、8月から12月まで様々な種類のりんごがあるので、また長野に足を運んで頂ければ嬉しいです。今後もよろしくお願いします。

**VOICE** 活動で感じたこと、感想  
及川 志保 頌栄短期大学 2 年生

この活動を通して長野の災害のこと、その災害でのりんごの被害、りんごが元に戻るまでどのような経緯があったのかなどといったことを直接現地の方から聞くことが出来てとても貴重な経験ができました。そして農家の方々とも繋がることが出来たことから、りんごを通して今回の様な会を行うことが出来て、とても楽しかったです。この私たちの活動に協力してくださった方々には感謝です。

# 岡山県小田郡矢掛町での活動

## 大学生とおしゃべりしませんか？

～ 2018年7月のこと～

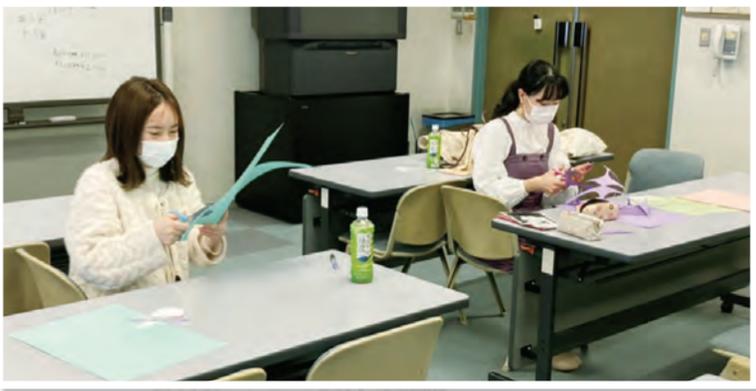
災害から2年以上が経ち、大人でもない子供でもない災害時に見落とされやすい当時の高校生に焦点を当てました。今後起こりうる災害に向けて高校生への支援を考えるために彼らの気持ちを学び、真備のみなさんはもちろん、たくさんの方に知ってもらうこと、持続可能な会にすることを目的として実施しました。また、その気持ちを文字に残したく真備の特産品である「たけのこ」から派生させた「きもちの笹」を作りました。

災害時のお話しをするにあたって大学生と高校生の距離を縮めるためにゲームや雑談タイムを設けました。その後大学生がファシリテーターとなりフリプトークという方法で災害時や避難所でのこと、現在の生活になるまでなど、当時伝えられなかった今だから話せるようなことについてたくさんお話ししました。

重い話ばかりになるかと思いきや高校生の明るさとまっすぐに伝えようとしてくれた気持ちのおかげで「全国からボランティアが来てくれてうれしかった。」「救助の優先順位をわたしたちだって上げてほしい。」「早く逃げなかったから逃げるべき。」といったたくさんのお話を学びました。彼らの思いを多くの方に知ってもらい、高校生への支援を考えるきっかけになればと思います。

日時 2021年3月16日(火) オンライン

参加者 矢掛高校生9名、矢掛高校OG現大学生2名、神戸の大学生5名



## 西日本豪雨

2018年(平成30年)6月28日から7月8日にかけて西日本を中心に北海道や中部地方を含む全国的に広い範囲で記録された台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨。西日本を襲った豪雨は、洪水や崖崩れを引き起こし、200人以上が死亡、数十人が行方不明という36年ぶりの大災害となりました。中でも倉敷市真備町は最も被害の大きかった地域で、市全体の死者数51人のほとんどを占めています。真備町の4分の1以上が浸水、水の深さは最大で4.8メートルに及びました。

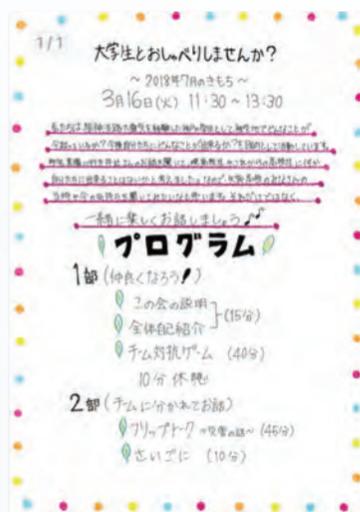


### お世話になった方々

岡山県立矢掛高等学校 地域協働活動コーディネーター 井辻 美緒 様  
 教諭 高木 潤 様  
 岡山理科大学 2年 浅野 乃里佳 様  
 香川大学 2年 西川 奈美穂 様  
 倉敷市社会福祉協議会 地域福祉課 主任 山本 知穂 様



大学生とおしゃべりしている矢掛高校生



きもちの笹完成！



### VOICE

現地関係者からのコメント  
 西川 奈美穂さん 香川大学2年生

西日本豪雨から約2年半、災害を忘れられていく中で、同世代の人に体験した災害を話す機会を設けて下さり本当に嬉しく思います。私自身、災害から時が経ち、違う土地に住んでいるため災害の記憶が薄れてきています。災害の記憶を残すためにも伝えていくことは大切だとこの会を通して痛感しました。そして、同じ災害を経験した高校生の方から自分が今まで知らなかったことを知ることができ、まだまだ西日本豪雨の新しい発見があるため多くの人にもこの災害のことを伝えて共有していかないといけないなと思いました。矢掛高校卒業生として、招いてくださり一緒に活動できて良かったです。この同世代の災害の話を書くという活動が続くものになってくれたら嬉しいです。

### VOICE

活動で感じたこと、感想  
 中川 真由 甲南女子大学2年生

今回、オンラインで矢掛高校生と災害についてお話しをし、災害経験のある高校生から実際に話を聞くことで、新たに対策を練ったり、今後被災した際に気を付けるべきことを学ぶことができました。特に、二階にあるものを持たずに逃げたせいで大切なゲーム機が壊れてしまったということから、豪雨によって二階まで浸水することを学びました。そこでこれから豪雨で被災する際には周囲に「大切なものは持って逃げて」と指示できると思いました。この活動に参加して得たものは多く、それを実際に活かせるようにしたいです。

# 熊本県人吉市・兵庫県三木市での活動

## 私たちがお助けマンになる ～子供たちと表札づくり

仮設住宅集会所での「つながるカフェ」へのオンライン参加や人吉市社会福祉協議会スタッフからお話を伺いました。その中で私たちは、仮設住宅で暮らしておられる住民の方に小さな彩りを添えたいという目標ができました。そして目標を達成すべく、兵庫県三木市と熊本県人吉市の小学生と一緒に表札づくりに挑戦する活動を行うことに決めました。作成した表札は、人吉城跡仮設住宅の皆さんにお送りする予定です。表札の作成にあたり、三木市の小学生対象に、事前学習の時間を設けます。内容は「人吉市の被災の現状」や「これからの防災」についてです。兵庫、熊本の大学生が講師となり学ぶ場を提供します。

この活動への参加により、災害の恐ろしさや備えておくことの重要性について、子どもたちに理解してもらいます。いつ起こるか分からない災害に対して、漠然とした恐怖だけではなく、具体的な防災について考えるきっかけにして欲しいと思います。



**日時** 2021年3月25日(木)、26日(金)、29日(月) オンライン

**参加者** 熊本・兵庫の小学生13名、熊本の学生2名、神戸の学生6名

## 人吉市内仮設住宅内集会所での 「つながるカフェ」への参加

熊本学園大学、社福災害学生ボランティアグループが関わる人吉市内の仮設住宅集会所の「つながるカフェ」とオンラインで繋ぎ、仮設住宅で生活を送る方々のお話を聞き熊本の現状を学ぶとともに「自分たちが何をすべきか」といったニーズの把握を行いました。また実際に避難されている方からお話を聞き、熊本の現状を神戸の学生が知る機会になりました。

**日時** 2021年2月23日(火)、3月2日(火)、16日(火) 11時30分～ オンライン

### 活動で感じたこと、感想

**大島 かれん** 神戸常盤大学1年生

実際に経験した事による災害に直面した時にする行動や、今まで大丈夫だったから大丈夫だろうとか、役所と戦うなどの話には現実感があり、実際に声で聴ける体験談が凄く印象に残った。みなし仮設住宅に住んでおられる女性の方の話では泳いで家屋から外に出た話や流されかけたお話しなど順番に出来事を話していただけた。お2人から同じ出来事のそれぞれの異なる体験を伺えたのがとてもよかった。



## 令和2年7月豪雨

2020年(令和2年)7月の全国的な大雨。特に4日から7日にかけて九州で記録的な大雨となり、球磨川など大川での氾濫が相次ぎました。全国死者数84名のうち、熊本県は65名です。私たちは、被害の大きかった人吉市の社会福祉協議会の方にお話を伺い、コロナ禍の中での災害ボランティアセンター運営や被災された方の生活再建、長期的なコミュニティづくりについて、重要性を認識して、自分たちにもできることがあると感じて、活動にも活かしていきました。



### お世話になった方々

熊本大学 熊本創生推進機構 准教授 安部 美和 様  
熊本学園大学 ボランティアセンター 副センター長 准教授 高木 亨 様  
人吉市社会福祉協議会 事務局長 松岡 誠也 様  
熊本大学 D-SEVEN 代表 諏訪原 夏海 様  
熊本学園大学 社福災害学生ボランティアグループ 代表 山北 翔大 様  
三木市 緑が丘アフタースクール 東羅 雅美 様

## 熊本豪雨災害学習会

熊本豪雨災害の現場の最前線で活動された方から熊本豪雨災害の現状と課題(社協の役割も含め)について学び、今後の活動に役立てることができました。

**日時** 2021年3月3日(水) 16時00分から17時00分  
**講師** 人吉市社会福祉協議会 事務局長 松岡 誠也 氏

### 活動で感じたこと、感想

前田 暉一朗 神戸大学2年生

学習会で印象に残ったことを2点あげたい。1点目は社会福祉協議会の活動と役割が非常に広範であり、災害時の復旧作業や仮設住宅への支援のような短いスパンでの活動だけでなく、災害後のコミュニティづくりといった長期スパンの支援も行っていること。2点目はコロナ禍の災害という新たな状況の中で、ボランティアセンターにおけるバスマッチングを行うなど柔軟に対応し、コロナ禍においても工夫次第で様々なことができると考え直すことができたこと。



### 現地関係者からのコメント

VOICE

**山北 翔大さん**

熊本学園大学社福災害学生ボランティアグループ代表

新型コロナウイルスが懸念される中で発生した令和2年7月豪雨。二重の災害でした。そんな中、神戸コンソとの活動を頂き、リモート支援の在り方を確立することができました。私も進行形で活動しながら、神戸の皆さんも先行事例がない中、模索し企画して下さるなどたくさんの壁がありましたが充実した時間を過ごすことができました。今回で終わりではなく、皆さんと人吉で会える日が来ることを願うばかりです。

VOICE

### 現地関係者からのコメント

**諏訪原 夏海さん** 熊本大学 D-SEVEN 代表

この活動に参加したことで、繋がりのなかった熊本学園大学のボランティアサークルさんと一緒に人吉で活動でき、D-SEVENとしての活動にも変化がありました。本当によい契機になりました。ありがとうございました！

### 活動で感じたこと、感想

VOICE

**奥川 華** 神戸松蔭女子学院大学2年生

「つながるカフェ」に参加して、現地で被災された方のリアルな話を聞いたことで、映像や文章ではわからない被災当時の気持ちを知ることができ、実際に被災した経験のない私も心が苦しくなった。そして、被災された方の話を直接聞くことは、大切だと改めて感じた。また、災害に関しては、日頃からの準備が大切で、その準備が自分の命や自分の大切なものを守ることに繋がるのだということも分かった。今回の経験から、被災地には、被災から半年以上経っても苦しんでいる方がいることを知り、私たち学生でも、何かできることがあれば協力したいと強く思った。

### 活動で感じたこと、感想

VOICE

**松木 温寛** 甲南大学2年生

活動に活かすため西間上町第一仮設住宅に住む方にお話を伺いました。実際に豪雨に直面した時の行動、泳いで外に出た話、流されかけた話などが非常に印象に残りました。

# NAGANO



戸隠そば

日本三大そばのひとつ。絶品のあじわい！



信州りんご発祥の地 赤沼

りんご果樹園と農園が立ち並ぶ赤沼。ミネラル豊富な土や近隣の山々から流れる湧き水などの生育環境から美味しいりんごが作られます。

甘くて蜜がたっぷり！

赤沼のりんご

# MIYAGI



せり鍋

おだしとせりがいい香り♪



かわまちてらすうどん

川辺の憩いの商業施設。オープンテラスとなっているので心地よい風を感じながら食べ歩きも楽しめます。

とろけるイチゴミルク



いちびこスイーツ

楽しい！おいしい！がっばい！

安全な旅行を楽しもう！

## おすすめ！ Spot&Food

観光地やグルメを楽しむことも地域を元気にする方法。安心安全をしっかりこころがけましょう。

# HYOGO



鋭い切れ味を誇る伝統的な金物！

三木金物



日本一の酒米「山田錦」

三木市は生産量日本一の年も！

店内にはたくさんの焼き菓子があります 078-861-0120

神戸スイーツ

神戸マイスター認定神戸洋菓子ボックスが監修する「KOBE BOLEDO お菓子楽団」さんの神戸スイーツ。お菓子のレポーターもたくさん！

KOBE BOLEDO 店長 高石さん

# OKAYAMA



ままかり寿司

岡山昔ながらの定番料理



岡山後楽園

季節によって変わる自然の風景が美しい大庭園。歴史的価値のある建築物をたっぷり見ることができます。

もちりょうが人気のお店♡

真備のうどん

# KUMAMOTO



人吉銘菓 長まんじゅう

100年以上の歴史のある和菓子



青井阿蘇神社

今から1200年前に創立された国内最南端の国宝建築物。「人吉ひかり復興計画」としてライトアップもされていました。



ひとよしまち燈り

龍に「復興目指して昇っていく」という願いが込められています。

## ボランティアお役立ち情報

兵庫県内外の様々なボランティア募集情報がアップされています！災害ボランティアだけでなく、高齢者や子どもたちを対象とした地域のボランティア活動など、みなさん一人ひとりにぴったりのボランティア活動が必ずあるはず！！あなたもボランティアに参加してみませんか？

- ◆ ひょうごボランティアプラザ (コラボネット) <https://www.hyogo-vplaza.jp/>
- ◆ 神戸市社会福祉協議会 <https://www.with-kobe.or.jp/>
- ◆ 日本財団学生ボランティアセンター <http://gakuvo.jp/>
- ◆ 大学コンソーシアムひょうご神戸 <http://www.consortium-hyogo.jp/>

本紙をご覧になって、ご意見・ご感想などをぜひお聞かせください！

◆ お問い合わせは…

大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会  
〒651-0072 兵庫県神戸市中央区脇浜町1丁目2-8  
兵庫国際交流会館1F  
【TEL】 078-271-0233 【FAX】 078-271-0244  
【E-mail】 info@consortium-hyogo.jp



<http://www.consortium-hyogo.jp/>